

NEWSLETTER

2016.12.22

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

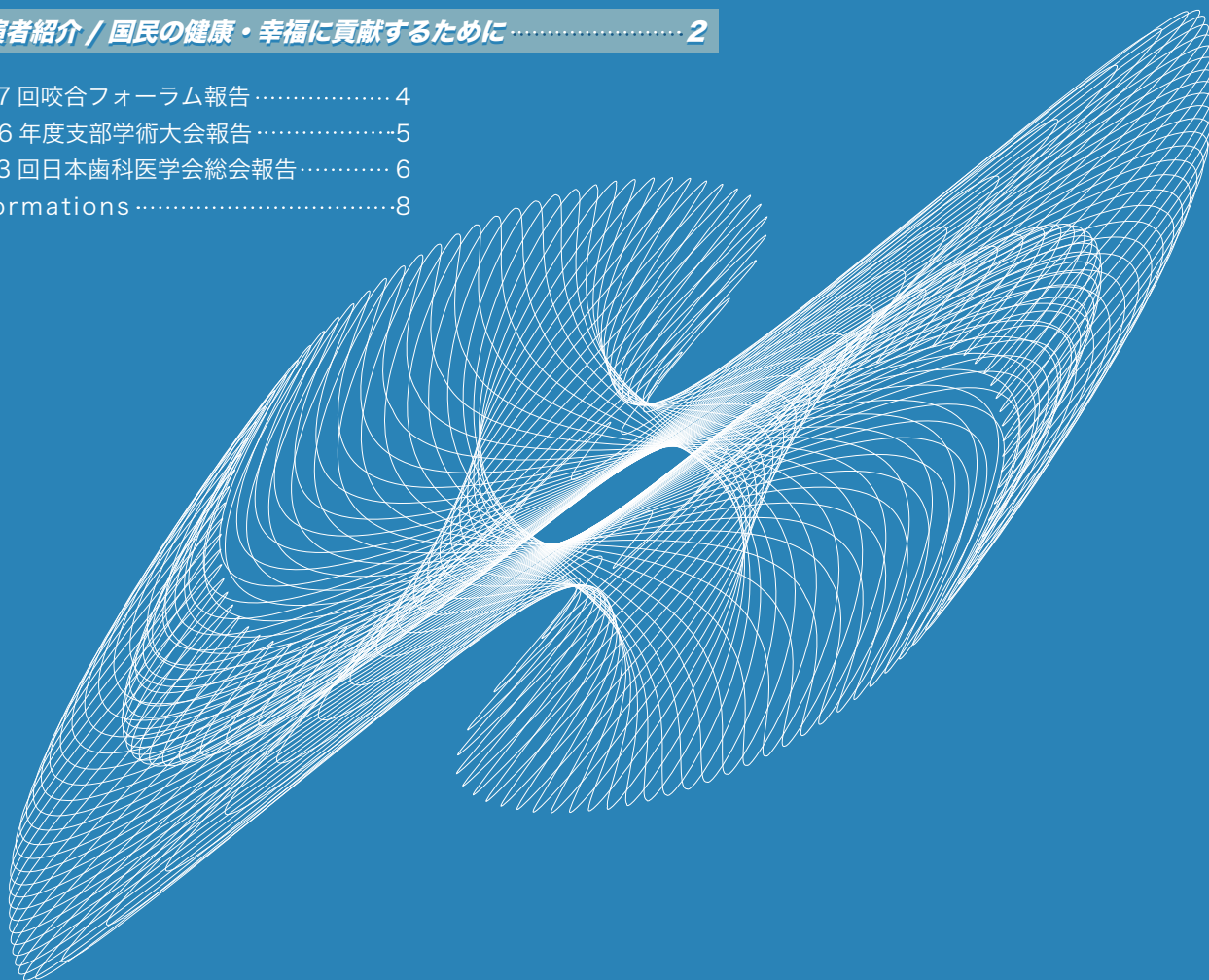


第35回 日本顎咬合学会学術大会・総会

新・顎咬合学 ―国民の健康・幸福に貢献する―

海外演者紹介 / 国民の健康・幸福に貢献するために 2

- 第17回咬合フォーラム報告 4
- 2016年度支部学術大会報告 5
- 第23回日本歯科医学会総会報告 6
- Informations 8



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 ニュースレター No.77

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-8-2 山京半蔵門パレス 201 TEL : 03-6683-2069 FAX : 03-6691-0261
ホームページ URL : <http://www.ago.ac/>



第
35
回日本顎咬合学会学術大会・総会
新・顎咬合学 一国民の健康・幸福に貢献する一2017年6月10日(土)・11日(日)
東京国際フォーラム

特別講演 ①

Trends Affecting the Practice of Dentistry

Adapting to and Embracing the Future Oral Health Care Environment



Christian S. Stohler (DMD, DrMedDent)

2013年8月1日に米国・コロンビア大学歯学部部長兼コロンビア大学メディカルセンター首席副院長に就任。Stohler 教授は、スイス・ベルン大学で DMD, DrMedDent の学位を受領し、口腔外科学と歯科補綴学の認定資格も取得。同教授は、2003～2013年、米国・メリーランド大学歯学部部長を務めた。メリーランドへ赴任する前には、米国・ミシガン大学の人の成長発育センターの教授、リサーチサイエンティスト、歯学部の研究科長、生物・材料科学科の主任教授を歴任。同大学に在任中には、William R. Mann 校の教授に指名され、また Roy &

Natalie Roberts 寄付講座の主任を務めた。

さらに、Stohler 教授は、スイス・研究賞、米国・NDA、Pierre Fauchard（ピエールフォーシャル）アカデミー、歯科矯正学教育・研究財団からそれぞれ業績賞、ミシガン大学顕著業績賞、Horace Wells 功績賞などの受賞に加え、日本・日本歯科大学名誉博士号を授与されており、中国・四川大学と上海交通大学、ペルー・カイエタノエレディア大学から名誉教授職の称号も受領されている。加えて、Stohler 教授は、米国・国立歯学・頭蓋顔面研究所の科学評議委員会の会員かつ委員長を務め、国際歯科学士会と米国・歯科学士会のフェローに推挙されている。

なお、疼痛に対する脆弱性の決定因子、プラセボ反応の中樞神経性の相関性、生体機能に対する疼痛ストレスの作用などに関する論文などは、120 編以上にのぼる。

国民の健康・幸福に貢献するために

今回、全体のプログラムとしては、ホールCにおいてテーマを「新・顎咬合学」とし、これからの日本顎咬合学会の方向性を明示したいと考えています。メインプログラム、テーブルクリニックでは、ともに、歯・顎・口腔内を実際に修復する基礎～応用の臨床に直結するプログラムとして、聴講される先生方が理解しやすいように、基礎から学ぶ「基礎シリーズ」、基本からもう少し知識を付けたい方のための「ワンランク・アップ」、さらなるスキルを身につけレベルアップしたい方には「ステップ・アップ」、スペシャリストとして活躍したい方には「極める」の4段階に分類し、数多くのプログラムの中で迷うことなく聴講しやすい工夫をしました。皆様とともに臨床をレベルアップしていけたらと思います。また、2017年は記念大会であることから「叡智を学ぶ」としたカテゴリーにて日本顎咬合学会を長年にわたり支えていただいている先生方にリレー形式で登壇していただきます。豊かな経験を学ぶことが可能となるでしょう。さらに、昨年に引き続き、「歯科界の世界遺産」である咬合器を展示します。普段お目にかかることのない珍しい咬合器ですので是非、会場（ホールE）へ！

今大会も多彩な内容で、皆様のご参加をお待ちしております。



写真提供：本平孝志先生

会員発表募集要項

演題募集期間	2016年12月1日(木)～2017年1月31日(火) ※抄録の投稿は、2月28日(火)まで
対象者	発表者、共同発表者ともに本学会の会員であること ※ただし、歯科技工士、歯科衛生士、歯科助手は会員でなくとも発表可能です ※準会員、非会員歯科医師、非会員臨床研修医、学生はご発表いただけません
演題投稿方法	HPからのみの受付となります >>> http://www.ago.ac/35th ※メール、郵送、FAX、電話による受付は行っていません ※投稿に関する詳細はHPにてご確認ください
発表形式	発表形式：「口演発表」「ポスター発表」いずれか ■口演発表 スライド形式によるプレゼンテーション発表／発表時間15分+質疑応答5分=20分 ■ポスター発表 ポスターの掲示と口頭発表4分
演題カテゴリ	発表内容のカテゴリA：①予防歯科②小児歯科③保存修復④歯内療法⑤歯周治療⑥クラウン・ブリッジ ⑦インプラント⑧有床義歯⑨矯正治療⑩口腔外科⑪フルマウスリハビリテーション⑫咀嚼・摂食・嚥下 ⑬該当なし 発表内容のカテゴリB：①咬合②顎関節③審美④MI（低侵襲治療）⑤再生療法⑥CAD/CAM⑦メンテナンス ⑧開業経営学⑨コミュニケーション⑩患者教育⑪チーム医療（多職種連携）⑫全身疾患 発表種別のカテゴリC：①症例報告②実験・観察③調査・疫学④有機・無機・金属材料 ⑤機器・ソフトウェア開発 【カテゴリの選択数・方法】 選択数：3つまで 方法：各カテゴリから複数項目を選んでもよいが、A、B、Cのカテゴリから各1項目を選ぶことが望ましい （選択例①）カテゴリA⑥、カテゴリB①、カテゴリC① （選択例②）カテゴリA⑦・⑩、カテゴリB①
賞について	【優秀発表賞】 口演発表者の中から優秀発表者として10名、ポスター発表者の中から優秀発表者として5名を次回第36回 学術大会にて表彰いたします 【メーカー賞】 各メーカー賞の対象発表者は下記の通りです 《カポデンタル賞》 発表形式：ポスター発表／対象者：下記カテゴリを含む発表を行う卒業10年程度の会員 歯科医師／対象発表カテゴリ：A-⑥、⑦、⑧、⑩、B-①、②を含む発表 《モリタ賞》 発表形式：ポスター発表／対象者：会員歯科技工士 《ヨシダ賞》 発表形式：ポスター発表／対象者：会員歯科衛生士
採否通知	2017年2月初旬にご登録いただきましたメールアドレス宛てにお送りします。なお、条件付き採択の場合があり ますのでその際には指示にしたがい、演題の修正を行っていただきますのでご了承ください。 ※抄録の採否通知は別途行いますのでご注意ください

事前参加登録のご案内

事前参加登録期間

2016年12月1日(木)～2017年5月16日(火)まで

※参加費払込期日：5月25日(火)

※締切後のお申込みはお受けできません。締切後は、会場の当日参加登録受付にお越しください。当日参加登録は、かなりの混雑が予測されますので事前参加登録をお勧めします。

※事前参加登録のキャンセルはお受けできません。またご入金いただきました参加登録費のご返金もできませんので予めご了承ください。

事前参加登録方法

学術大会ホームページ <http://www.ago.ac/35th/>

※HPまたはFAXでのお申込みとなります。メール、電話でのお申込みはお受けしていません

学術大会参加費

会員歯科医師	27,000円	非会員歯科医師	31,000円
会員歯科技工士	12,000円	非会員歯科技工士	15,000円
会員歯科衛生士	12,000円	非会員歯科衛生士	15,000円
準会員	無料	歯科助手	12,000円
非会員臨床研修医・非会員学生		無料	

—THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY—

第 17 回 咬合フォーラム 報告



加治彰彦先生，菅野博康先生，赤川安正先生，吉松繁人先生

東北支部 鈴木 慧

(福島県いわき市 小滝歯科医院 勤務)

去る9月25日、第17回咬合フォーラムが杜の都・仙台にて開催されました。今年は、「咬合治療の可能性と展望～健康長寿に向けて～」をテーマに掲げ、加治彰彦先生（東京都開業）、吉松繁人先生（福岡県開業）、赤川安正先生（広島大学名誉教授）という3人の臨床経験豊富な先生方を演者に迎え、また日本顎咬合学会元会長でいらっしゃる菅野博康先生（宮城県開業）に座長の労をいただき、講演が行われました。

加治彰彦先生は、「矯正治療はどの程度健口に貢献するのか？」を演題に、矯正専門医としての観点からご

講演いただきました。「矯正治療によりう蝕や歯周病になりづらくなる」といった情報は、本当に正しいのか？ また、健口社会を確立するために矯正治療が貢献できるのか？ などを、海外留学にて培われた経験をもとに、EBMというフィルターを通し検討されました。

吉松繁人先生は、「咀嚼機能の回復を目指して～診断と補綴製作の接点～」を演題に、近年、高齢化社会の深刻化に伴いより注目されている総義歯治療に焦点を当てて講演されました。先生は、現在行われている総義歯製作システムの有用性を理解しながらも、患者固有の筋骨格系に対し、生理学的、解剖学的により調和のとれた補綴物の装着を目指し、診断方法や治療計画、リハビリテーションの概念などについて、多くの症例や私見を交えて講演されていました。

赤川安正先生は、「咬合、補綴治療の新しい価値」を演題に、歯科医師自身、または咬合・補綴治療は「健口長寿」に対しどこまで貢献できるのかについて講演されていました。咬合・補綴治療により、「噛む」「食べる」「しゃべる」「飲み込む」ことを回復することで、健康な高齢者は健康長寿を伸ばし、虚弱な高齢者はQOLを改善すること。つまりよく噛める状態を作り、維持していくこと、それが咬合・補綴治療の新しい価値であるということを、ご自身の経験や研究からエビデンスに基づき、熱弁されました。

そして最後に、3人の先生方とともにディスカッションを行い、盛況のうちに会を終えることができました。学会のテーマでもある、「新・顎咬合学が創る健康長寿」について、より深く議論ができる場になったのではないかと思います。

来年は石川県金沢市にて第18回咬合フォーラムが開催されます。学会が目指す歯科医療について、理解を深めあうためにも、より多くの先生方のご参加を期待しております。



加治彰彦先生



吉松繁人先生



赤川安正先生

2016年度支部学術大会 報告



北海道支部

北海道支部長 春藤 憲男

10月16日、北海道支部学術大会が、札幌駅直結のアスティ45ビルにて開催されました。午前中は、会員による発表が6題、午後は、長野県で開業の谷口威夫先生と歯科衛生士の山岸貴美恵さんによる特別講演が行われました。今回は、歯周病の話とあって、非会員の歯科衛生士の参加が特に多く、参加人数は過去最高の190名、企業展示数13社と大変な賑わいでした。大会に参加した歯科衛生士から山岸さんのテクニクをもっと聞きたいと早速の問い合わせがあったほど、関心が高かったようで、講演の素晴らしさが伝わってきました。谷口先生、山岸さん、本当にお世話になりました。また、本部より来ていただいた俵木副理事長をはじめ、関係してくださった皆さんに深く感謝を申し上げます。

東北支部

東北支部長 木村 純子

11月6日、第22回日本顎咬合学会東北支部学術大会が山形県歯科医師会館において開催されました。佐藤勝史実行委員長のもと「山形の山形による東北のための学術講演会～ゆりかごから墓場まで～」というテーマで、歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士・コデンタルスタッフ・歯科企業の“四位一体”の形で行われました。午前中は歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士9名の会員発表が行われましたが、大変レベルの高い素晴らしい内容の発表でした。午後は山形県在住の7名の講師による特別講演が行われました。乳幼児から高齢者までの歯科医療全般が網羅された内容であり、日々の臨床に役立つものばかりで、熱の入った講演に参加者は身を乗り出して大変熱心に聴き入っていました。歯科技工士・歯科衛生士の参加も多く過去2番目の184名の参加者が集い、11社の企業展示にも沢山の人がかりができており、大変盛況に開催できました。関係者の皆様に感謝申し上げます。



関東支部

関東支部長 長阪 信昌

11月20日、第4回関東甲信越支部学術大会が日本橋にあるコングレスクエア日本橋で開催されました。昨年のテーマ「ワンランク上の歯科臨床を目指して!!」を継続し、サブタイトルで“磨きたい技・伝えたい心”を掲げ開催しました。咬合再構成セッション、DHセッション、補綴とメインテナンス（依頼講演）、一般会員発表（11名）、歯科医師向けと歯科衛生士向けランチョンセミナー、エンドとダイレクトボンディングの二つのテーブルクリニック、ルーペを用いたハイジーンワークとプロビジョナルレストレーションの二つのハンズオンと盛りだくさんの内容で、どの会場も席が足りなくなるほどの盛況で、参加人数は過去最高の486名、企業展示は11社となりました。今回は広報の一環としてSNSを活用したことにより会員、非会員に対して今まで以上に認知度を高められたのではないかと思います。どの会場の受講者も熱心で真剣な視線が印象に残る会でありました。これもひとえに本学術大会でご講演をいた次期理事長の上田秀朗先生をはじめとする素晴らしい講師の先生方、また運営にあたりご尽力いただいた支部理事、企業の皆様のおかげであります。深く感謝申し上げます。

他の支部の学術大会報告記事につきましては、次号ニューズレターに掲載いたします。

第23回 日本歯科医学会総会 報告



日本顎咬合学会 理事長 上演 正

今回、私は本会の代表ではなく、日本補綴歯科学会指導医、日本歯科大学客員教授としてのお役目と理解して講演をさせていただいた。

私はシンポジウム1「全部床義歯を進化させる—新技術と伝統の融合—」において講演する機会に恵まれた。本シンポジウムは日本補綴歯科学会が企画・立案を行い「全部床義歯は全ての補綴歯科医療の基本であり、完成された治療技術のようで今なお論議されている。一方で、デジタル化、McGill コンセンサスにあるインプラントオーバーデンチャーの推奨、診察・検査から治療結果までのデータを整理・分析する方法など、新技術の波も押し寄せて

いる。そこで、これら新技術に関連するテーマを3つに絞り、全部床義歯の大家と次世代を担う補綴研究者のコラボレーションから、全部床義歯臨床に関する蓄積された知識と新技術をどう生かし、また患者の多様な要求にどう応えるかを示したい」とするモデレーターの市川哲雄先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野 教授）からのご依頼で講演を行った。

本シンポジウムでは、全部床義歯臨床の大家として会員の阿部二郎先生（阿部歯科医院 院長／東北大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野 臨床教授）が「CAD/CAM 義歯：実践して思うこと」、河原英雄先生（歯科河原英雄医院 院長）が「インプラントオーバーデンチャー」、上演 正（ウエハマ歯科医院 院長）が「治療評価：無歯顎患者が失うもの、術者が与えられるもの」を講演し、それぞれのテーマに対して指定発言として金澤 学先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）、熱田 生先生（九州大学大学院歯学研究院）、松田謙一先生（大阪大学大学院歯学研究科）が発言された、日本補綴歯科学会の大学研究者の次世代を担うエースらとの共演であったため、久しぶりに緊張を隠せなかった。

阿部先生の講演は全部床義歯におけるCAD/CAM技術は臨床試験を行った結果、いろいろな問題が抽出されているが、改良を重ねて近い将来、今までの阿部先生自身の業績と組み合わせることで新技術として確立すると思われる内容であった。次の河原先生の講演では、インプラントオーバーデンチャーの30年を超える長期症例を示され、咬合の安定性が重要であること、平均寿命は健康寿命と不健康寿命からなり、健康寿命の伸延（生きる、生き延びる）も重要であるが不健康寿命から健康寿命への生還（生き返る）もさらに重要であることを臨床例を示し強調された。

私は2050年には女性の平均寿命が90.29歳（3人に1人が100歳まで）になるであろう将来予測から、現在90歳以上でQOLの高い長期的予後の良い全部床義歯症例（術後18年間、10年間）と患者満足度の高い35歳若手歯科医師の無歯顎難症例を提示し、その基本的知識、手技から全部床義歯臨床の治療評価を解説した。最も大切なことは「症型分類による難易度の評価（日本補綴歯科学会）」であり、これを基本として主観的評価と客観的評価を術前、術後に行うことが重要である。

主観的評価には老年的超越（噛めていないのに満足してしまう現象、高齢者特有の心理状況が影響している可能性）を松田謙一先生らの研究から明らかになりつつあることを、客観的評価については、グルコセンサーGS-II（咀嚼能力を数値で診る）とモーションビジットレーナーV-1（咀嚼パターン・安定性を診る）による咀嚼機能検査を症例を通して解説した。最後に絶対的評価について、無歯顎患者が死を迎えるまで幸福な全部床義歯人生を送り、ご家族から評価いただけることが大切であることを述べた。



治療ガイドラインに従い、術前の治療評価に基づき検査・診断を正確に行い、治療計画を作成し、術中・術後の治療評価を行うことの重要性や長期間にわたる術後管理を忘れてはならない。地域における臨床医はこのことから多くのことを学べる最高の環境にあることを自覚するべきである。

各専門医分科会には治療ガイドラインが示されており、これを基準に専門医の認定がなされている。本会是对応すべき臨床の範囲が多岐にわたるので治療ガイドラインを策定することは困難であるが、各専門分科会のガイドラインを理解し、臨床に応用していただきたいと痛感している。

日本顎咬合学会としては、今回は、九州・沖縄支部の先生方を中心に22名の会員が素晴らしいポスター発表を行った。学会からのポスターセッション参加に企画、開催、演者選定など、役員としてご尽力いただいた上田秀朗次期理事長に心より感謝申し上げたい。本会は4年ごとの開催であるが、我が国の最新・最高の研究、臨床を学べる素晴らしい会である。会員の皆様が、認定分科会の会員、認定医、指導医として研鑽していただき、国民、患者、地域の臨床のオピニオンリーダーになれることを期待している。

参加者 報告

広報委員 樋口 克彦

ポスターセッションでは、約400の演題のポスターが掲示された。日本顎咬合学会九州支部の若手の会員を中心として、日本歯科医学会認定分科会として20名ほど、ポスター発表の機会を与えていただいた。多くのポスター発表であったにもかかわらず、全身との関わり、歯の保存、歯冠修復・欠損補綴、麻酔・口腔外科、口腔の発達と異常・加齢に伴う疾患先端医療と歯科材料、咬合・口腔関連機能障害と不定主訴等、専門的な分野ごとのパートに分けられており、大変見やすいポスターの並びとなっていた。我々は臨床的な発表であることから、開業医の先生方とのデスカッションが多いと予想していたが、大学関係の先生方からも、様々な質問やアドバイスをいただき、約1時間の質疑応答は大変有意義であった。

学術委員 松延 允資

福岡国際会議場では、さまざまな分野に関する講演やシンポジウム、分科会プログラム、テーブルクリニック、ランチョンセミナー等が多数企画されていた。その中で、「よく観る歯科医療～マイクロスコープの有効活用～」を聴講した。現在マイクロスコープの使用はトピックであるが、歯内療法だけでなく、修復治療や歯周形成外科などに用いた症例は圧巻であった。また、最後に拡大鏡とマイクロスコープの使い分けは？という質問に対し、演者全員が拡大鏡は使用しておらずマイクロスコープのみ使用しているとの返答が驚きであった。隣接するマリンメッセ福岡では、日本デンタルショーが開催され、毎年行われる九州デンタルショーのおよそ1.5倍の規模とのことであった。この日に合わせた新商品の展示もあり、来場者も多く、非常に活気づいた雰囲気であった。

広報委員 松木 良介

会場は講演を行う福岡国際会議場をメインに、隣のサンパレス福岡でポスターセッションを、同時開催の日本デンタルショーがマリンメッセ福岡で開催された。初日の21日金曜日から会場周辺は来場者で賑わった。開会講演はノーベル医学生理学受賞者の山中伸弥教授が登壇された。メインホールはもちろん、サテライト会場まで全て満席で立ち見となるなど、今まで見たことないような盛況ぶりであった。講演ではiPS細胞の発見からちょうど10年経ち、今後のさまざまな可能性と、研究開発と臨床応用への難しさと幅広い支援の必要性を述べられた。続いて医師で宇宙飛行士の向井千秋先生が登壇された。宇宙での体験と魅力を講演され、夢のある話に来場者も魅了された。

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 News Letter 77

発行日：2016年12月22日

発行者：上演 正

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス201

TEL：03-6683-2069 FAX：03-6691-0261 E-mail：nichigaku@ago.ac

認定医制度規則・認定医制度施行細則の変更についてのお知らせ

認定医制度規則、認定医制度施行細則の一部変更について、2016年6月10日の理事会で承認されました。新しい認定医制度規則、認定医制度施行細則については学会ホームページをご覧ください。

学会ホームページ URL : <http://www.ago.ac/>

なお、咬み合わせ認定医、咬み合わせ指導医の更新については下記変更がありましたのでお知らせいたします。

【咬み合わせ認定医の更新について】

認定期間 5 年間で 60 単位以上を取得すること。ただし、5 年間に学会の年次大会（6 月の学術大会）に 1 回以上、且つ支部学術大会に 1 回以上出席していること。

【咬み合わせ指導医の更新について】

認定期間 5 年間で 100 単位以上を取得すること。ただし、5 年間に学会の年次大会（6 月の学術大会）に 1 回以上、且つ支部学術大会に 1 回以上出席していること。 また、指導医研修会に 1 回以上出席していること。

※上記の更新の変更については、咬み合わせ認定医、咬み合わせ指導医とも本年 2016 年 7 月 1 日より認定期間の開始した場合からの適用とする



◆ 会員カード発行のお知らせ

平成 24 年度より会員カードを発行しております。学術大会・咬合フォーラム・研修会などの受付手続きや単位申請（申請方法は会によって異なります）に必要となりますので開催時には必ずご持参頂きますようお願いいたします。

◆ 学会ホームページの「会員専用ページ」をご利用ください

- ・勤務先・自宅・お届け先などで登録内容の確認・変更
- ・認定資格・単位取得状況の確認
- ・年会費のお支払（カード決済）、お支払状況の確認

※コンビニ・郵便振替をご希望の方は事務局までご連絡ください

- ・2016 年度の年会費の納入がまだお済みでない方は、至急お振込みをお願いいたします。
- ・過去に未納分がございますと、認定試験、認定医の更新、学術大会への参加ができませんのでご注意ください。
- ・学会からの発送物は郵便及びメール便を利用しています。メール便の場合は転送されませんのでお届けできない場合がございます。勤務先の変更、転居等登録内容に変更が生じた場合は、至急変更のお手続きをお願いいたします。
- ・「会員専用ページ」のご利用には、会員 ID（会員 No）とパスワードが必要です。ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。